

総合2023 自分軸を考える～なに、なぜ、どうする～
第24回 | 2月21日(木) | 13:00～14:30
ケアに未来はない



白石正明氏
医学書院編集部

会場:津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

大学卒業後、法令出版社で校正に従事。その後医学書院に移り、雑誌『精神看護』を立ち上げた。2019年に、担当している「シリーズ ケアをひらく」が毎日出版文化賞を受賞。同シリーズには川口有美子『逝かない身体』(大宅壮一ノンフィクション賞)、熊谷晋一郎『リハビリの夜』(新潮ドキュメント賞)、六車由美『驚きの介護民俗学』(医学ジャーナリスト協会賞)、國分功一郎『中動態の世界』(小林秀雄賞)、東畑開人『居るのはつらいよ』(大佛次郎論壇賞)などがある。この4月に駅の階段から滑落し、大腿四頭筋腱断裂。どうにか復活したが、歩きスマホを見ると誰彼なく注意したくなり、より大怪我の危険性も。

<担当スタッフより>

「ケア」という言葉を聞いたことはありますか。ケアの文脈にいる自分を見つめたことはありますか。私たちは自分について考えることは多いものの、自分の意見や価値観、属性、アイデンティティや将来といった枠組みから考えるばかりで、痛みなどの感覚、傷つき、他者との繋がりに焦点が当たることが少ないように思います。今回の講演では、ケアとは何かを知り、ケアの文脈から見た自分や、ケアを通じた他者との関係における自分について考え、「自分が必要としているケア」や「自分にとってケアとなっているもの」に気づいてもらえたらと思います。

共催:ウェルネスセンター